

公立大学法人福岡県立大学

I 全体評価

公立大学法人福岡県立大学は、理事長のリーダーシップの下、法人化のメリットを活かした取組を積極的に進め、教育研究等の充実及び主体的・自律的な大学運営に努めてきたところである。

平成30年度から第3期中期目標期間（平成30年4月1日から令和6年3月31日まで）に入り、新たなスタートを切った福岡県立大学は、設立団体である福岡県が定めた中期目標において、地（知）の拠点として、大学の個性・強みを生かした教育研究を行い、地域社会の発展に貢献できる優秀な人材の育成をはじめとした取組を着実に実施することを最も重要な使命としている。

令和元年度の評価にあたっては、第2期中期目標期間内に取り組んだ諸改革や魅力ある大学づくりを一層進めるとともに、第3期中期計画の達成に向け、年度計画を着実に実施しているかという視点から、当該年度の業務実績評価を実施した。

評価の結果、中期目標項目6項目中1項目（地域貢献及び国際交流）について「特筆すべき進捗状況にある」、4項目（教育、研究、業務運営の改善及び効率化、財務内容の改善）について「順調に進んでいる」、1項目（自己点検・評価及び情報の提供）について「おおむね順調に進んでいる」と評定した。

また、福岡県立大学では、専門的職業人としての能力の育成はもとより、全学横断型教育プログラムの充実に取り組むとともに、不登校・ひきこもりサポートセンターでの相談・支援事業、学習ボランティアの派遣等、地域貢献活動を積極的に実施している。

以上のことを踏まえ、公立大学法人福岡県立大学の令和元年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進捗していると認められる。

福岡県立大学は、これまでに地域と連携した取組で優れた成果をあげている。

引き続き、地域貢献活動等の取組を一層推進するとともに、大学の理念の実現を目指して、教育研究をはじめとした業務の充実に向けた取組を推進し、社会から高く評価される大学となることを期待する。

なお、自己点検・評価における組織的な取組を着実に実施することが望まれる。

II 項目別評価（中期目標項目別評価）

1 教育

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

教育については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- (1) 福祉社会の実現に貢献できる専門的支援力の養成と多様なニーズに包括的に対応できる人材の育成
 - ・教養演習テキストの改訂を行い、新年度の授業計画を新シラバス様式に沿って

作成するとともに、eラーニング教材を用いた語学教育を実施するなど、教養教育の充実に取り組んでいる。

- ・人間社会学部において、令和元年度入学生が対象となる幼稚園教諭一種、保育士資格及び教職課程に係る新カリキュラム、公認心理師養成に係るカリキュラムを実施するとともに、福祉社会で役立つ総合的な能力を身に付けるための総合人間社会コースにおいて、4年次カリキュラムまで完成させた。
- ・看護学部において、モデル・コア・カリキュラムを踏まえた科目内容の点検を行い、新たに5科目を追加するとともに、「ケアリング・アイランド大学コンソーシアム」の構成大学と共同でオンラインを取り入れた反転授業を実施した。
- ・看護師、保健師、精神保健福祉士等の各種国家試験合格率が、高水準を維持している。

(2) 高度専門職業人の人材育成

- ・人間社会学研究科の心理臨床専攻における公認心理師及び臨床心理士の養成に係る実習評価票の見直しや、社会福祉専攻における科目区分の統合など、大学院教育の充実に図っている。

(3) 教育活動の活性化

- ・教員を対象としたセミナーの実施等、ファカルティ・ディベロップメントを推進するとともに、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の実施に向けて、シラバスの様式を改訂するなど、教育活動の活性化に努めている。

(4) アドミッション・ポリシーに合った意欲ある学生の確保

- ・オープンキャンパスの開催や入試説明会への参加、高校訪問等、入試広報活動に積極的に取り組み、志願倍率が目標を上回った。

(5) 学生の学修支援と生活支援

- ・図書館分館ラーニング・commonsの使い方や活用事例を学生及び教員に周知するとともに、情報ネットワーク環境を充実させ、図書館の利用やeラーニングによる学修が促進されている。
- ・経済的理由により修学が困難な学生を支援するため、寄附金を活用した特別奨学金制度を新設した。

(6) キャリア支援

- ・系統的キャリア形成支援講座やインターンシップ・プログラム等を充実させるとともに、教職協働体制の下、きめ細かなキャリア支援に取り組み、就職率が初めて100%となった。

2 研究

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

研究については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・附属研究所において、学際的研究プロジェクトを推進するとともに、地元自治体等と連携協定を締結し、共同研究の基盤を構築した。また、研究機能を強化するため、研究所組織の見直しを行っている。
- ・外部研究資金獲得に努め、科学研究費補助金等の応募件数、獲得件数ともに目標を上回っている。

3 地域貢献及び国際交流

評価	5：中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
----	---------------------------------

地域貢献及び国際交流については、年度計画を着実に実施するとともに、目標を大幅に上回る取組や、地域に貢献する積極的な取組が認められたことから、特筆すべき進捗状況にあると判断し、5と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター等において、資格・免許保持者等を対象に、専門分野を深めるためのリカレント教育や研修の実施に努めている。
- ・不登校・ひきこもりサポートセンターにおいて、相談件数が4,000件、キャンパススクール利用児童・生徒数が2,000人を超えたことや、サポーター派遣人数が過去最高となるなど、不登校・ひきこもりへの支援を積極的に行うとともに、福岡県不登校児童生徒復帰支援事業において、県内の教育支援センター等のネットワーク化と支援力向上に資する取組を実施した。また、地域教育支援プロジェクト「土曜の風」において、地域の補充学習の場に学生を学習ボランティアとして派遣した回数が前年を大きく上回るなど、学生の社会貢献・ボランティア活動を積極的に支援しており、これらの地域社会の課題への取組を高く評価する。
- ・交流協定締結校との教員交流や学生の短期研修プログラム（派遣）の実施など、国際交流の推進に努めるとともに、留学生（派遣・受入）数が目標を上回っている。

4 業務運営の改善及び効率化

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

業務運営の改善及び効率化については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・地域貢献活動の拡大に向けて、看護実践教育センターに特定行為研修部門を新

設し、看護師を対象とした特定行為研修を令和3年度から開講するための体制整備を行った。

- ・インターネット出願システム及び電子シラバスを導入するとともに、入学検定料収納事務のアウトソーシングを行い、事務の大幅な効率化を行った。

5 財務内容の改善

評価	4：中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる。
----	-----------------------------

財務内容の改善については、年度計画を着実に実施し、目標を達成していることから、順調に進捗していると判断し、4と評価する。

評価する点は、以下に示すとおり。

- ・外部研究資金に加え、教育等に関する外部資金の獲得に努めている。
- ・インターネット出願の導入及び入学検定料収納事務のアウトソーシング等の事務の効率化を行い、経費を節減した。

6 自己点検・評価及び情報の提供

評価	3：中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる。
----	---------------------------------

自己点検・評価及び情報の提供については、改善すべき項目も認められるが、全体的にはおおむね計画どおりに実施していることから、総合的に判断し、3と評価する。

評価する点又は課題とする点は、以下に示すとおり。

- ・内部質保証を含めた内部統制の体制を実効性のあるものとするよう、早急に整備し、自己点検・評価内容の改善を図る必要がある。
- ・大学ホームページ等で教育研究情報を適切に公開するとともに、高校訪問、入試説明会等の機会を通じて、大学の情報を広く発信している。